

# バンディングかわら版（第6号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

## 鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）をつけた野鳥を放鳥し、のちに同じ鳥が再発見（回収）されることで、各個体の移動を調べ、その生態を明らかにする調査です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始されました。現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）の協力により実施されています。



野鳥につける足環。足環をつけることを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と言います。

注）この調査は、野鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

## 標識調査からどんなことがわかるの？

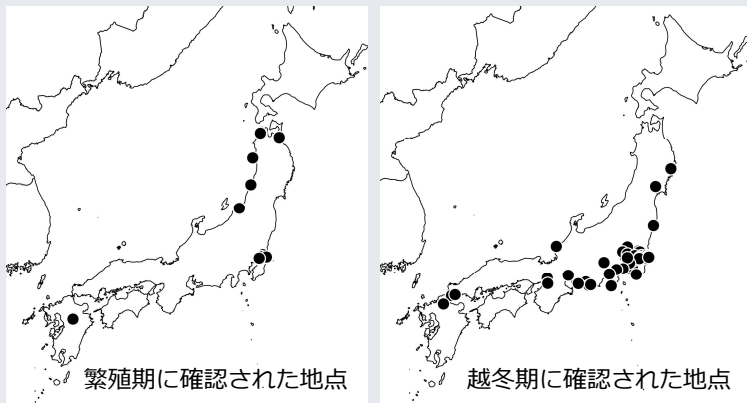
### 絶滅危惧種コジュリンの越冬地の可能性が高い場所を新たに発見

コジュリンは環境省レッドリストで絶滅危惧II類（VU）に選定されています。個体数が少ないだけでなく、生息域も限定的で、繁殖地は本州と九州の一部で見つかるだけです。情報が少なくどこが越冬地かはよくわかりません。絶滅危惧種を保全するには、繁殖地と越冬地を解明することや、繁殖個体群間の交流を解明することが重要です。

そこで、長期に広域で実施されてきた標識調査データを活用しコジュリンの確認地点を調べました。



コジュリン（写真提供：仲村昇）



1961-2019年のデータによると繁殖期（6-7月：462例）は7県18地点、越冬期（1-2月：1,519例）は16県46地点で確認がありました。繁殖期の地点はこれまで知られている繁殖地と一致しました。一方、主な越冬地は関東の太平洋側から九州にかけて広い範囲で確認され、主要な繁殖地である北日本の大半では越冬していないことがわかりました。

新たな越冬地が確認され、コジュリンの越冬状況が広域で明らかになりました。

より詳しく知りたい方は令和3年度調査報告書 p.30-41の本調査結果をご覧ください。  
(<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>)

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
山階鳥類研究所 鳥類標識センター  
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342  
E-mail: [BMRC@yamashina.or.jp](mailto:BMRC@yamashina.or.jp)

## どんな鳥がどのくらい再発見（回収）されているの？

足環をつけて放たれた鳥が、2020年に別の場所で回収された例数は94種1,266例（前年より12例増）でした。このうち国内で足環をつけ、国内で再発見された例数の上位3種は、オオジュリン（309例）、ユリカモメ（191例）、オナガガモ（89例）です。

1961年から2020年までの累計例数は、265種、41,873例となりました。

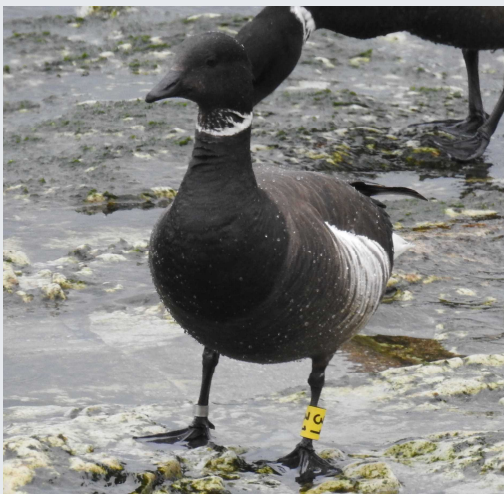


## 標識調査からどんなことがわかるの？

### 湿地をつなぐ渡り鳥

**コクガン**は北極圏で繁殖し、日本を含む東アジアで越冬する渡り性の水鳥です。日本に定期的に飛来するガン類は6種（マガン、カリガネ、ヒシクイ、ハクガン、コクガン、シジュウカラガン）が知られていますが、その中でも渡りルートや生態が最も謎に包まれています。

2017年から2018年にかけて、北海道野付湾で24羽のコクガンを捕獲・標識したところ、6羽が北海道から東北地方の5カ所の沿岸域で再確認されました。さらには野付湾の標識個体は、ロシア・オホーツク海北岸でも確認がされました。



右足に金属足環、左足にカラーリングを装着したコクガン



北海道野付湾（白丸）で標識したコクガンが再確認された場所（黄丸）



### 渡り鳥の保全を進めるには？

コクガンのような渡り鳥を保全するためには、渡りルートを明らかにし、ルート上の重要な生息地全てを守っていくことが必要です。一つでも生息地が欠けてしまうと、渡りに深刻なダメージを与えかねません。

標識調査で得られる移動のデータの蓄積は、鳥の渡りの基礎的な情報となります。これらのデータは、ラムサール条約<sup>\*1</sup>や東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ<sup>\*2</sup>などの国際協力の場でも共有され、地域や国の間での協力や保全戦略に活用されています。

<sup>\*1</sup> 1971年採択。水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息する動植物の保全促進を目的とした国際条約。  
<sup>\*2</sup> 2006年発足。同地域で渡り性水鳥とその生息地の保全、生息地間のネットワーク構築を推進する国際協定。

コクガンの移動についてより詳しく知りたい方は、以下の論文をご覧ください。

Sawa, Y., Tamura, C., Ikeuchi, T., Shimada, T., Fujii, K., Ishioroshi, A., Tatsuzawa, S. & Ward, D. (2020) Evidence of Brent Geese *Branta bernicla* moving between an autumn staging area in east Hokkaido and wintering sites in west Hokkaido and northern Honshu. *Ornithological Science* 19(2): 211–216.